



Two-Day Seminar for Climate Change and Forests
7-8.Feb.2013, Tokyo

導入説明 INTRODUCTION



森林総合研究所
REDD研究開発センター長
松本光朗

Forestry and Forest Products Research Institute
Director of REDD Research and Development Center
Dr. Mitsuo MATSUMOTO



気候変動と途上国の森林を考える2日間 ～グリーン・エコノミーの時代における熱帯林保全をめぐる～ Two-Day Seminar for Climate Change and Forests - Conservation of Tropical Forests towards the Green Economy -

- 2日目:技術セミナー
- REDDプラスphase3へのシナリオ
- フェーズ3に向けた技術的課題の整理と先進的知見の共有を目的とした国際セミナー

- Day 2: Technical seminar
- Scenario to Phase 3 - Challenges for REDD+
- Expected participants: technical experts, government officials, researchers, students



2月7日のセミナーでは、民間企業、一般市民、消費者などの立場から、どのように熱帯林保全やREDDプラスの問題に関わっていけるかということについて議論した。特にグループディスカッションでは熱い議論にもとづくコメントや意見をいただき、非常に盛会となった。これは皆様のご協力の賜物だと考えている。今日は大きく雰囲気を変えて、より技術的な視点を取り入れ、REDDを違う側面から深めていきたい。

私どもは長年、森林の研究、特に東南アジアで熱帯林の研究を続けていた。同時に、リモートセンシングなどの空から森林を測るという技術的な開発も進めてきた。REDDプラスは、熱帯林を対象として、それを測るという技術科学が求められている。まさにそれはわれわれがやってきたことであり、「ここで活躍しなければいつ活躍するのか」という気持ちで取り組んでいるところである。

今日はまさしくその技術について取り上げる。それを机上のものとするだけではなく、世界各地の新しいアイデア、実践、そこから得た経験など、地に足の着いた議論を展開していきたい。

国際交渉の場でも非常にホットな議論が行われている。しかし、われわれは、それを着実に進めるための技術開発や現地での取り組みを進めていかなければいけない立場にあり、交渉を横目で見つつ進んでいかなければならない。

プログラム PROGRAM

- 基調講演 REDDプラスに関する国際交渉の動向
- セッション1 REDDプラスの課題1：国家森林モニタリングシステムの構築
- セッション2 REDDプラスの課題2：セーフガード対策とコベネフィットグループ討議
- セッション3 REDDプラスの課題3：プロジェクト活動から国/準国レベルへのスケールアップ
- パネルディスカッション REDDプラス実現に向けた課題

- Keynote speeches: Trends in international negotiations on REDD+
- Session 1: Challenges for REDD+ 1: Establishment of National Forest Monitoring Systems
- Session 2: Challenges for REDD+ 2: Safeguards and co-benefits
- Session 3: Challenges for REDD+ 3: Scaling-up from project level to the national level
- Panel Discussion: Scenario to Phase 3 - Challenges for REDD+ -




Take the next step!




本日、「気候変動と途上国の森林を考える 2 日間」の 2 日目は、特に技術を中心にお話しする。基調講演セッションでは、まず国際交渉でどうということが議論されているのかを林野庁の赤堀さんから発表していただく。続いて、現場で取り組んでこられた研究者の立場から、ノルウェー生命科学大学のアンジェルセン教授から基調講演をいただく。

セッション 1 では、国家森林モニタリングシステムの技術についてお話いただく。各国の現場でどのような取り組みがなされているかという報告と同時に、その技術について取り上げていただく。具体的には、ベトナムおよびブラジルの事例報告および最新情報が紹介される。

午後のセッション 2 では、セーフガードとコベネフィットという話題を取り扱いたい。セーフガードは REDD プラスに不可欠である。ただし、それをどう取り扱うかということは非常にチャレンジングな問題であり、各々の経験について話していただく予定である。

セッション 3 では、スケールアップという問題を取り扱いたい。それは、REDD プラスの当初からの問題である。国際交渉ではナショナルレベルあるいはサブナショナルレベルの活動を REDD プラスとしている。しかし、先行プロジェクトはより小さいレベルで行われ、そこからより大きなスケールにスケールアップしていくと考えられる。プロジェクトレベルからナショナル/サブナショナルレベルにいかにつなげていくかということは、非常に大きなチャレンジである。パネルディスカッションには参加者の皆さんにご参加していただき、質問票を用いつつ、さらに議論を深めていきたい。皆さんの熱心な参加を期待する。